



坂本正直「莫愁湖一馬たちはみていた」(1984年)

立命館大学国際平和ミュージアム 平和教育研究センター 第30回メディア資料研究会

絵が語る戦争の傷痕

—坂本正直と戦争のトラウマ—

坂本正直(1914-2011)は、日中戦争の従軍中に見た光景をもとに、戦後「クレークの月」などの戦争絵画を数多く描き残しました。脱ぎ捨てられた軍服や青白い馬など、坂本が描き込んだ不穏なものたちは一体何を語ろうとしているのか。今回、「戦争のトラウマ」という視座から当館所蔵の坂本作品を見つめ直し、そこに刻み込まれた戦争の記憶を考えます。

12月21日(木) 立命館大学国際平和ミュージアム
企画展示室 & セミナー室1

第一部 坂本正直作品ギャラリートーク
(14:00 ~ 14:30) 企画展示室

所 薫子 氏
(坂本正直記念館)

第二部 「トラウマ研究から見た坂本正直作品」
(15:00 ~ 16:30) セミナー室1

中村江里 氏
(広島大学大学院准教授)

※本研究会はご予約なしで、どなたでも無料でご参加いただけます。なお、当館に駐輪場・駐車場はございません。最寄りのコインパーキングや本学正門駐輪場などをご利用ください。